

の水爆実験で降った「死の灰」を分析し、放射能汚染の研究に力を尽くした。退職後は後進の育成に貢献しようと、自然科学分野の女性科学者を顕彰する「猿橋賞」を創設。2007年に87歳で亡くなった。（写真は女性科学者に明るい未来を会提供）



さあ 挑戦の年

てい
新春鼎談

東出悦子氏

アイベック社長

ひがしで・えつこ 1969年富山市生まれ。米国の大学卒業後、現地の会計事務所に就職。2000年に帰国し、東京の金融機関に勤務。10年に父が起業した構造物検査・診断のアイバック（富山市中田）に入社し、15年に社長就任。興成長戦略会議ウェルビーイング戦略プロジェクトチーム委員。56歳。

新田 八朗氏

富山県知事

にった・はちろう 1958年富山市生まれ。一橋大経済学部卒。都内での金融機関勤務を経て83年に日本海ガス入社。2000年から20年間社長を務めた。元日本青年会議所会頭、富山経済同友会特別顧問。20年の知事選で初当選し、24年に再選を果たした。67歳。

伊与原 新氏

作家・第172回直木賞

いよはら・しん 1972年大飯府生まれ。東京大大学院理学系研究科博士課程修了。2003～11年に富山大理学部に勤務し、助教などを務めた。10年「お台場アイランドベイビー」で横溝正史ミステリ大賞を受賞し、デビュー。25年「藍を継ぐ術」で第12回直木賞。53歳

司会・北日本新聞社常務編集局長 室尚志

やりたいことを声に

風通し良い社会目標

若者の扉開く

―若者が次の扉を開くために何が必要でしょうか。

で発信している学生が多くいる
何が好きで、何に自信があるかを
発することによって仲間が増え、
いろいろなことが始まる気がして

伊与原氏 学校や職場で言えば、
「ここはネットが発達している」
ネット空間にも「地域」はある。
富の人が見られる場所がある
はずだ。自分が言いやすい場所で
言いたい。

の若者が男性、女性という概念を
物事を考へていないのだから
か。10年後には、女性のリーダー
という結果もなると思う。

一行政は何かできるでしょう
か。

新田氏 出入り自由な富山県



東出悦子氏

伊藤原氏 女性研究者の先駆けとして、自ら主体的に行われたのは晩年だ。ただただ「後進が続きやうきように」というだけを考えてやっていた時期があった。元祖初代の日本学術会会長になったのも「猿轡質」を設けたのも、後進をエンカレッジ、勇気づけたためだった。目の前のことをするだけという道が開けると身をもて示した猿轡さんにとて

も勿論矣。奥出氏、ロールモデルがいると云ふに、ト・ジョウが作やすい、ロールモデル自もその人成長し、柔軟な行動力を示していかれたい。リリーチは、目標をすり抜けるべきでなく、軸を持っていなければ、後進が追いついていけない。時代が変わるのが早く、現在若い者は男児、女性という概念を、若者を考へていないのではなか。10年後は、女性のリーダーという言葉棄ねるかなと思ふ。一行政はやりかたでしようのか。

新田氏「出口が嫁のほうを出願したらしい。一口が嫁のほうが良いが、閉込めておかないものはない。自分も若い頃、戻って来ず、出て行く人も居り、戻つても居ない、世が学も良し、戻つても良し、風通しの良い県にしている。行政の役目だ。現在は、トータルにて、入つてくる人の手をフラスコには染じようとするところ、福山には染じようとはある、それ自明では無いので割当てるのもいいではないか。伊与原さんの『東洋にはたさん漢語がある』といひは錯覚」「まことにこの漢字を漢でみた」といふ提言は、若者にせよ受け取れてほしい。言葉

富山に自信持とう 伊与原氏

選択肢 豊富に提供 新田氏

幸せの意味考える

新年に寄せて

「新年に寄せて農民にメッセージをお願いします。」

伊与原氏「富山出身ではない私は、知事がよく口にされる「関係人口」だと思っている。富山大に勤めていた当時「旅の人」と言われた自分も富山が大好きで戻ってきた旅の人だ。皆さんには富山に自信を持ち、自慢してほしい。今日のテーマである「挑戦」について言えば、気負わず先を歩みすぎず、まず一歩を踏出す年にしてほしいかが大切だ。」

ANAクラウンプラザホテル富山

いえた。私たちがそれを再認識し、ここで暮らすことを楽しむで「幸せ」と感じたい」と思う。「幸せ」という言葉を聞くと、人から与えてもらうイメージがあるかもしれない。自分は幸せと気づくべきで、いつか時勢が切たと感じる。個々人可能生は無限大で、知恵と志によるものなので、失敗を恐らずに財権を捉えよう。思い込みや自己防衛をなくし、一度限りの歩みを一歩を踏み出せたらいいと思

新田氏 私は大学の卒業論文のテーマが「選択の自由」だった。まさに今の世事で最も重要な。子どもにも大人にも、選択技術がきざだけ必要であつた。特に子どもにはさまざまな選択肢を準備した。猿轡には「目の前の小さなチャンス」に気づき、適切な小さな行動を、大成功事に結びつけた。行方して多くの選択技術を提供するが、情報源アンチを選べ、それを知つてほしい。一歩踏み出した結果、失敗することもあるのだが、まずは選択に力めることが、まさに選択に一歩踏み出した。新しい年にしてほしい。願ひそのサポートを。

● 伊与原氏サイン本 5人にプレゼント

伊与原氏のサイン入り最新刊「翠雨の人」を抽選で5人に贈ります。北日本新聞バス会員（無料会員除く）が対象です。応募資格や申し込み・問い合わせはQRコードから。締め切りは10日（土）必着。



店舗はこちら



「プラス」に鼎談の詳細版を掲載しています。



詳細版は
こちら